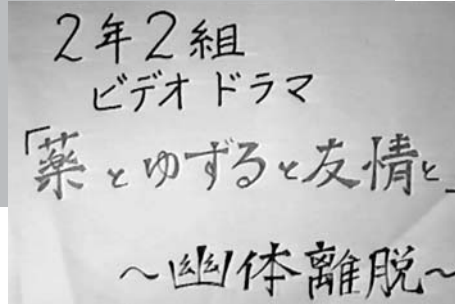




文化祭



劇・ダンス・映像上演など多彩な内容が見られる。



文化祭で上演されたビデオドラマの映像

サッカーのPK戦を模した競技。当時の流行がうかがえる。



体育祭



答 辞

【平成2年度卒業式・答辞より抜粋】

確かに仕事と勉強を両立して行く事の難しさを、私達の誰もが感じて来ました。僕などは冬は朝五時に起き六時に家を出て、午後四時まで働きますが、疲れた体を引きずって、それから登校する事は大変つらいことでした。しかし学校へ来て勉強の合間に職場の悩みや家庭の事など話し合ううちに一日の仕事の疲れがとれて、身も心も軽くなった事もありました。このようにして四年間も頑

張って来た事を今誇りに思っています。学校生活で出来た友達との仲間づくりの和、職場での貴重な体験などは、この四年間のあいだで学ばしてもらった素晴らしい収穫だと誰もが感じていると思っています。

「定通併修制度による修業年限3年制を取り入れて」 (創立40周年記念誌より)

本校元教頭 小澤 逸男

平成4年度の入学生より、定時制・通信制の併修により、修業年限を従来の4年制から3年制へと改革しました。月曜日から金曜日まで定時制の授業を受けます。土曜日は、桃谷高等学校の協力校となって通信制の授業を受けますが、本校でスクーリングを受け、レポートを提出し、考査も受けます。3年間で80単位以上を修得しますと卒業の資格が得られます。

更に、本校は、コース制も導入し生徒のニーズに応えるよう改編しました。標準コース、情報処理コース、スポーツコースの3つのコースを設置し、第2学年より生徒の希望により選択できるようになっています。冷房完備の立派なLAN教室が新たに設置され、平成4年の第2学期の10月より、コンピュータを使つての授業が受けられるようになりました。情報処理関係の授業は勿論の事、基礎的、基本的な内容の授業を従来の黒板での一斉授業から、一人一人の能力に応じて学習できるようになり、更に研究を進めているところがあります。また、テニスコート横に、新たに多目的コートとして、テニス、バスケットボール、パレーボール、ハンドボール等が行えるように整備されています。

一人一人の生徒を大切に、生涯学習の観点からも、自ら学ぶ意欲を育成しなければなりません。自由な校風の中で、やる気を持って伸び伸びと学び、生徒が持つ力を最大限発揮出来るよう日々指導に全力を傾けております。昼間働き、疲れた身体に鞭打って学習に励み、友人と語り合い、夜遅くまで暑い日も寒い日も熱心に部活動に取り組む姿勢は、堂々たるもので熱きものが伝わってきます。新しく導入されたLAN教室での授業も、生徒がごく自然に楽しく学習に励んでおります。勤労学生としての誇りを持って卒業して行ってくれると確信しております。

「吹田高校定時制」

本校元教諭 寿榮松正信

私が吹田高校定時制課程に赴任したのは、昭和56年。その頃は、いわゆる定時制の設立目的に合致したタイプの生徒がほとんどの時代でした。

吹田高校定時制課程の設立時から昭和37年まで、1クラス50名、42年までは100名、ほとんど定員を超えていました。1クラス40人になっても、2クラス定員が続きました。

しかし、生徒の入学に対する要求は世間の経済状況から、徐々に変わりつつありました。

仕事をしながら苦学をするという生徒が減り始め、他の目的で入学する生徒が増え始めました。

赴任した当時、吹田済生会病院の准看護婦、隣にあったエビオスの工場、江坂にあった旭川紡績などに勤めながら、夜は勉強に来るといった生徒が数多くいました。いわゆる集団就職で地方から出てきた生徒たちでした。数年後には、そのような生徒はほとんど卒業し、学校に近いところからの生徒が増えてきました。ちょうど、社会経済的には、バブルの前兆で、経済的には非常にうまくいっているような感じがする時節になってきたのです。

その頃から、精神的にいろいろな問題を抱えた生徒、全日制を退学した生徒の編転入学などの割合が増えてきました。小規模でもあり、教職員と生徒の関係が見通せる定時制課程がぴったり合致するという一方で、全日制課程では指導に乗りにくかった生徒にも、興味を持って授業に関わってくれることも、嬉しい状況でした。

生徒のニーズが変わってくると、定時制の組織も変化しなければと言うことで、色々なことが論議されました。

コンピュータが一般的に普及し、社会のシステムもコンピュータの導入が必須になってきたこともあって、従来行っていた商業をコンピュータ関連の科目に変え、充実させるというのも一つの方策でした。卒業後、勤務先で文書作成や、チャットした計算などが出来るようにと考えられてのことでした。LAN教室も、府内では早い機会に導入していただき、授業時間にもかなり取り入れられました。

全日制を受験して失敗した生徒などのためにも、従来の4年間修業を、3年間で出来ないかということで、通信制を併用した履修形態も社会の波の中で考えられました。

新規中学卒業生だけでなく、社会人にも公開しようということで、社会人入学制度や、公開講座なども作られました。経験豊富な社会人入学生と、新規中学卒業生が、お互いに切磋琢磨をし、気持ちを伝え合いながらの授業など、全日制ではとても考えられない効果が上がった時期もありました。

その間、定時制として教員の創意工夫などにより、各種の行事や、授業の内容に大きな変化をもたらせました。体育祭、文化祭はもちろん、文化鑑賞会などでは、生の演奏やお話を聞かせて貰ったり、球技大会など、数多く企画しました。

私個人としては、定時制課程に勤務させていただき、教師として教えたというよりも、色々な境遇に育ったり、個性豊かな生徒諸君に教えられたことの方が多かったこと、感謝しています。